

会派 進政会 研修視察報告書

報告者 長友潤治

【調査日】 令和6年12月25日（水）

【研修場所】 神奈川県藤沢市辻堂 アイクロス湘南6F

【研修項目】 #Re 地方議会 スタディ・ミーティング2024

I、研修概要

① 主催者 一般社団法人 地方公共団体支援機構

② 参加人数 各地方公共団体より64名

③ 研修次第

(1) 開会あいさつ

(2) 名刺交換

(3) 間違いだらけの議会××

(4) ホワイトな議会へ

(5) データ活用実践ワークショップ

④ 内容

テーマ「間違いだらけの議会××」についての研修では、講師の長内氏がこれまでの議会改革について、その意義や課題を冷静に問い直す内容を話された。長内氏は、議会改革が全国的なトレンドとして進められてきたものの、そ

れが本当に街の発展に繋がったのかを疑問視されている。私自身の経験からも、議会改革によって街が良くなったとは感じておらず、むしろ地方議会が本来担うべき行政のチェック機能や政策の検証といった役割が十分に果たされていないのではないかと指摘されました。特に、地方分権から地方創生の時代に移行する中で、国が策定を求めた総合戦略への関与やその後の検証が不十分であった点を問題視し、議会が本来の役割を見直す必要があると述べられました。

さらに、「開かれた議会」という言葉についても、その実態を改めて考えるべきだと提起された。市民からの請願や陳情に対して議会がすぐに対応せず、次の定例会まで議会を開かない現状では、市民にとって本当に開かれた議会とは言えないのではないかと指摘され。また、市議会の広報や広聴活動についても、首長が広く浅く市民の意見を聞くのとは異なり、議会は狭く深く市民の意見を聞き、それを議論に反映させることが重要だという考えを示された。そのため、広報活動や公聴会が必ずしも必要ではない場合もあると述べられた。

今回の研修を通じて、私自身もこれまでの議会改革には誤りや不要な取り組みがあったと感じた。しかし一方で、今市民から議会に求められているのは、行政のチェック機能に加えて、政策提言や議会の見える化といった新たな役割ではないかと考える。これからは、議会本来の役割をしっかりと果たしながら、議

会改革の本来の意味を考え直し、市民の期待に応えられる議会の在り方を模索していきたいと感じた。

テーマ「ホワイトな議会へ」についての研修では議会が議会改革や調査等を行う際に議会事務局任せではないかとの問いがあった。議会本来の役割を果たす為に自らが主導的に業務を果たす事が本分であるが、確かに事務局任せになっている部分もあると感じる。仮に都城市議会事務局職員への負担が過剰になっているのであれば是正の必要があり各議員がその認識を持つ必要があると感じた。

テーマ「データ活用実践ワークショップ」についての研修では講師渡辺氏より議会の一般質問や調査等においてまず必要なデータにいかにかアクセスできるかが重要であると述べられた。その手段として「e-stat」を活用したデータ収集を挙げられ、その演習を行った。私は一般質問の資料として正確なデータに基づいた質問でなければならいと認識しているが、中々思う様なデータにたどり着けないという事を何回も経験している。今回の研修は以前の委員会の研修会においても渡辺氏より同じ内容で研修を受けているが今回はより詳しく演習を交えて学んだ事は大変有益であったと感じる。今後は「e-stat」を活用しより正確なデータに基づき議員活動に役立てていきたい。

会派 進政会 研修視察報告書

報告者 黒木 優一

- 【調査日】 令和6年12月25日（水）
【研修場所】 神奈川県藤沢市辻堂 アイクロス湘南6F
【研修項目】 #Re 地方議会 スタディ・ミーティング2024

I、研修概要

- ① 主催者 一般社団法人 地方公共団体支援機構
- ② 参加人数 各地方公共団体より64名
- ③ 研修次第
 - (1) 開会あいさつ
 - (2) 名刺交換
 - (3) 間違いだらけの××
 - (4) ホワイトな議会へ
 - (5) データ活用実践ワークショップ

④ 内容

研修は3~4人のグループで受けた。

最初に名刺交換があり、15人程と交換した。

その後は、次第に沿って進められ、時には参加者の発言を求められ、我々都城市議にも政策形成ガイドラインの策定等について発言の機会を頂いた。

内容をまとめると、議会改革を進めてきて市や町が良くなったかどうかを考え、議会改革がある程度進んできたのであれば、市民のためになる政策を一番に考えて実行しようということだったと思う。

また、全国同じような議会改革は、誰かの思惑に乗らされているのではないかという疑問も持った方がいいともとれる内容もあった。そして、議会改革をやったことでブラック議会になっていないか考え、ホワイト議会を目指そうというものだった。

渡辺氏の講義はデータ活用をして、自分の町の状況をしっかり把握して政策につなげていかななくてはならないというもので、実際にe-statを使う練習をした。

II、研修の感想と成果

今回のような研修はあまり経験がなかったが、いろんな方が参加していてやる気のある（政策意欲）議員がほとんどだったと思う。

内容については、長内先生が早稲田大学マニフェスト研究会に所属されていたころと比べると議会改革について考え方が大分違ってきたのかと感じた。

しかし、地方創生総合戦略で町はよくなったかとの問いかけには、みな「否」という答えだったと思うし「ドキッ」としたと思う。

データ活用術はなかなか難しいが慣れていかななくてはいけないと思う。

今回の研修で学んだことに取り組みながら、今後の政策提言や、一般質問の質を上げていきたいと思った。

研修の様子



都城市議会議長 様

提出日 令和7年 1月24日

研 修 報 告 書

進政会 赤塚 隆志

以下のとおり研修の報告をいたします。

1 会派名及び視察者名： 進政会

長友 潤治 黒木 優一 赤塚 隆志

2. 研修先・テーマ及び日時

令和6年12月25日（水） 6：00～17：30

神奈川県藤沢市

「アイクロス湘南」

さよなら議会改革、私たちが目指すのは地方議会のモダナイゼーション

3. 研修の内容

本市の議会改革及び議員研修の講師をお願いしている、一般社団法人地方公共団体支援機構の長内伸紳悟アドバイザー主催のセミナー。議題として、今まで各地方議会が取り組んできた「議会改革」が本当にそれぞれの地域に住む市民、住民のためになっているのか。単に他の議会もやっているのか、ウチもやらなければ、と言う自己満足に陥っていないか。もう一度原点回帰し、誰のための議会改革であり、そこで生じる変革や改革が市民の幸福度の向上に寄与するものなのかを論点として次の5項目について研修を行った。

ア 間違いだらけの議会改革

- ・聞き飽きた議会のあり方論、聞き飽きた登壇者談
- ・間違いだらけの開かれた議会、市民参加

イ 間違いだらけの議会のデジタル化

- ・本当のデジタル活用
- ・世界の議会デジタル

ウ 間違いだらけの政策サイクル

- ・ハムスターの回し車ではない、本当の政策運営

エ 最前線＜議会ホワイトコード＞

- ・議会基本条例ではもう古い
- ・議会改革やって議員も事務局も残業、ブラック企業化

オ データ活用（実践活用ワークショップ）

4. 視察の感想

まず、研修のタイトルにある「モダナイゼーション」とは一体何者か、少し説明が必要かと思う。「モダナイゼーション (Modernization)」とは、直訳すると「現代化」や「近代化」といった意味の言葉で、老朽化した既存システムを現在のニーズに合うよう刷新したり、置き換えたりすることを指す。議会に当てはめると、議会基本条例の策定に始まり、ペーパーレス化や省力化を目的に導入された「タブレット」の貸与、政策提言に向けた取り組みや定例会に象徴される期間限定の議会運営など、今まで当然のように、当たり前のように接してきたそれぞれのシステムが、もはや陳腐化し、市民のためになっていない、議会と議会事務局の仕事を増やしただけの自己満足のシステムになっていないか。このあり方については、もう一度しっかりと、内容を精査し、本当に市民のための議会として、議会や議員の活動が市民に周知され、理解され、二元代表制として、市民を代表して、市政に携わっていく本質を考える変革を意味する。

研修にあたっては、各地方議会より、約60超の議員、事務局、行政職員が参加しており、各テーブル6名ほどに分かれて、5つのテーマごとに意見交換や討論を繰り返した。講師の提案する課題について、それぞれの自治体における（人口規模、予算規模など様々である）実態と課題があり、大変参考となった。

研修の目的であるモダナイゼーションへの転換については、唯一無二の正解があるわけではなく、今まで与えられてきた情報や定義について、市民目線での取り組みについて本当に合っていたのか、市民の幸福度、満足度を向上させる取り組みになっていたのか、根本から考え直させるいい研修となった。

5. 視察の成果及び市政への反映等

本市においては、現在、ペーパーレス化を目的にタブレットと行政システムを導入し、開かれた議会としては、本会議、4常任委員会の審議内容については、YouTubeでリアル配信を実施している。更に、議会との意見交換会や報告会などを定期的に実施しており、議会基本条例も策定済みである。

昨年度から当時の議長諮問により、政策提言に向けた特別委員会を設置し、政策提言に向けた取り組みを継続している。それらによって議会改革度調査2023（早稲田大学マニフェスト研究所）においては全国42位としてランキングされるまでになった。

しかしながら、研修の大前提である「市民の幸福度アップ」に果たしてどれだけ寄与しているのか、市民の声が反映された議会なのか、疑問が残る。今回の研修では、やはり市民のための議会、市民が喜んで住んでくれる街になるような取り組みを实践すべきとの知見を得た。

では、一体、どのような取り組みが必要なのか、具体的にはどのような変革が必要なのかという部分においては、まず行政の行う施策や予算配分等、市民生活に直結する部分の監査、一般質問等における行政へのアプローチに、しっかりと公表されているデータを基に、その内容や費用対効果、目標達成度などを公にし、市民の審判を仰げるようにしなければならないと思う。そのためには、委員会審査における予算・決算等の審査を今までのように、執行部主体、執行部ベースで行うのではなく、議

会が自ら率先して、調査・研究・審査を尽くすことに限ると思う。そのためには、先進的な取り組みを実施している地方議会が採用している「通年議会」制度を本市においても導入し、今までの議会の流れを一新することが、本当の議会改革への早道ではないかと考える。既に、本年度の議長諮問として「通年議会」導入に向け、議会運営委員会において取り組み始めている。

今回の研修の内容については、通年議会をはじめとする取り組みに深く寄与するものであったと自覚している。今回の研修が「市民の幸福度向上」に向けた取り組みに大きく反映するよう、努力していきたい。

以 上